

福崎町駅前観光交流センター オープン半年

明日担う人育む新拠点

地域の人と人をつなぐ施設としてさまざまな場や機能を提供している福崎町駅前観光交流センターがオープンして約半年がたった。多様な人材が集まる場として機能し、そこから新たに店を開業しようとする動きや、地域の若い人に働く場を生み出すことを目指した団体も誕生している。地域の交流拠点となっている同センターの今を紹介する。

カフェスペースで交流

1階 情報発信

JR播但線福崎駅に隣接する敷地に福崎町が建設。鉄骨2階建ての建物は前面がガラス張りで、だれでもが気軽に集えるようになっている。まちづくり会社「PAGE（ページ）」（福崎町）が指定管理者として運営にあたり、昨年10月6日にオープンした。

同センターのキーワードは「交流」だ。1階には各種観光リーフレットやデジタルサイネージが配置され、観光情報や地域情報などを発信し、観光に訪れた

人を受け入れる場ともなっている。「まちライブラリ」は、地域にかかわる本

ラテなどカフェスペースを提供する



子ども向け読み聞かせ会も

などを読んだり、借りたりできるスペースで、子ども向けに読み聞かせの会なども開かれている。カフェスペースでは、コーヒーやもちむぎラテ、地元住民が作ったお菓子のほかビールなどを楽しめる。物販スペースでは、福崎町の特産であるもちむぎを使った食品をはじめ地域の産品や妖怪グッズが販売されている。店舗開業を目指す人がお試しに商品販売する「チャレンジショップ」としても使われている。



物販スペース。店舗開業を目指す人が商品販売できる「チャレンジショップ」にも

情報交換、学習に利用

2階 コワーキングスペース

2階は、フリーで仕事をしている人やテレワークの社員、学生などが利用できるコワーキングスペースが整備されている。約20人分の席が用意されており、デザイナーやライターなどのクリエイターのためのビジネスや情報交換の場となっ

起業希望者対象セミナー開催

ているほか、高校生、大学生のための学習スペースとしても活用されている。また、外側のオープンスペースがテラスになっており、暖かくなればビアガーデンなどとしての活用も予定している。

コワーキングスペースを利用してさまざまなセミナー、イベントも活発に行われている。2月には起業をしたい人、直売に挑戦したい生産者などを対象にしたセミナー「ローカルチャレンジプロジェクト」が開催された。登壇した講師からは「地域の価値を向上させるために地域の人が主体になって取り組むエリアマネジメントが重要」「地域に魅力的な人を発掘しつなぐことで地域を元気にする新たな知恵が生まれる」とメッセージが寄せられ、同センターのような場の重

人をつなぐ

地域おこし団体が発足



藤尾勇典さん

コワーキングスペースを積極的に活用する一人が、姫路市内でWebマーケティングのコンサルティンクを行うラ・ポール代表の藤尾勇典さん(34)だ。藤尾さんは福崎町で26年間暮らし、姫路市内に拠点を移した後、姫路市内に拠点を移し事業を営んでいるが、「いつか故郷の福崎町に恩返しをしたいと考えていた」そう、交流センターがオープンすることを知るとすぐにコワーキングスペースの利用を申請。以降、「仕事での打ち合わせなども含め今ではほぼセンターを拠点に事業活動を行っている」という。

2月に開かれた「ローカルチャレンジプロジェクト」には藤尾さんが仕事をしながら通じて交流のあったクリエイターや店舗関係者らを誘い人と人をつないだ。その交流の中から知り合った

2階の「コワーキングスペース」。ビジネスの情報交換の場、学習スペースとして整備され、イベントやセミナーも活発に行われている



同センターのよう

PR

PAGE創造都市推進室の神谷周作さんは「センターが起点になってまちのいきいきづくりに貢献したいと思う人が増え、その交流の中から新たなまちづくりの輪が広がってほしい」と期待を寄せる。